NIEしもつけワークシート ㊻

〈2021年6月15日付・下野新聞1面〉

高校生向け

年　組

記事は加工しています

第４回とちぎ次世代の力大賞表彰式

大賞に輝いた荻野さん（前列中央）ら受賞者＝14日午前11時40分、宇都宮市内、柴田大輔撮影

SOON 電子版にも写真

とちぎ次世代の力大賞表彰式

さらなる飛躍へエール

ビジネスや文化などで活躍する若者を顕彰する「第4回とちぎ次世代の力大賞」（下野新聞社主催）の表彰式が14日、宇都宮市内のホテルで行われた。大賞に輝いた同市、一般社団法人「県若年者支援機構」職員荻野友香里氏（30）と、奨励賞に選ばれた小山市、起業家村田玲子氏（35）、宇都宮市のNPO法人「キーデザイン」＝土橋優平代表理事（27）、鹿沼市の仏像修理工房「三乗堂」に、表彰状と天明鋳物師若林秀嗣氏制作のトロフィーが贈られた。

荻野氏は2016年、県若年者支援機構に入り、子ども食堂の運営を始めたほか、立ち上げなどの相談を受け付けるサポートセンター長も務める。一貫して子どもの貧困問題に取り組み、子ども食堂発展に寄与している点が高く評価された。荻野氏は「子どもたちは社会の宝。活動を続けながら、子どもたちの居場所がもっと世の中に広まるよう精進したい」と意気込んだ。

村田氏は18年に小山市へ移住。市のブランド豚「おとん」を使ったソーセージなどを開発した。三児の子育てをしながら起業した行動力が一目置かれた。

キーデザインは不登校に悩む子どもや家族を支援。相手の立場に立ったきめ細かいサービスや、ビジネスとして一定の成果を上げていることが認められた。

三乗堂は井村香澄氏（32）、中愛氏（31）、森崎礼子氏（32）が文化財の修復に取り組む。講演会などを通して文化財保護の重要性を広く発信する姿が評価された。

下野新聞社の岸本卓也社長は「これからの人生は大いなる可能性に満ちている。今後もさらに飛躍してほしい」とエールを送った。（大園美伊子）

設　問

記事中の傍線部をもとに、あなたの発想を書いてみましょう。

【１】「子どもの貧困問題」（解決したい課題・問題）
①あなたなら何をして、この問題を解決に向かわせたいですか。

②この問題が解決できたら、どのような社会が実現すると思いますか。

【２】「子ども食堂の運営」「（子ども食堂の）立ち上げなどの相談を受け付ける」（対策・解決法）
①この対策によって、どのような問題を解決することができると思いますか。

②このような対策をしたら、どのような社会が実現できそうですか。

【３】「子どもたちの居場所がもっと世の中に広まる（社会）」（実現したい社会）
①こういう社会をつくるために、あなたなら何をしたら良いと思いますか。

②こういう社会なら、どのような問題が解決できそうですか。

【発展学習】
【１】～【３】で書き出した内容を基に、起業のアイデアを提案する「とちぎアントレプレナー・コンテスト」に応募してみましょう。

（例）〇〇をして、「子どもの貧困問題」を解決に向かわせる会社／「子どもの貧困問題」を解決し、〇〇のような社会を実現する会社／「子ども食堂の運営」によって、〇〇のような問題を解決する会社／「子ども食堂の運営」をし、〇〇のような社会を実現する会社／「子どもたちの居場所」をつくるために、〇〇をする会社／「子どもたちの居場所」をつくり、〇〇のような問題を解決する会社―など

出題・監修は県高校教育研究会国語部会・山口哲男宇都宮白楊高主幹教諭